資料2

第3次大阪府文化振興計画の策定に向けて（案）

大阪府文化振興条例（H17.4.1施行）*文化は人々の生きがい及び創造力の源泉。文化振興により心豊かで潤いのある生活の実現、個性豊かで活力ある地域社会の発展に寄与*

第１次大阪府文化振興計画「おおさか文化プラン」（H18年度～ H22年度）

≪文化振興の目標≫
- 大阪文化への自信、誇りの復活と発信
- 文化のまちづくりと創造性あふれる人づくり
- 文化を通じた次世代育成

≪施策の方向≫
- 大阪文化の再発見と情報発信
- 新たな文化創造のための土壌づくり

≪施策の推進≫
- 府民・ＮＰＯ・企業・行政（国、府、市）の役割分担
- オール関西での取組み

第２次大阪府文化振興計画「大阪文化振興新戦略」（H22年度～ H24年度）

文化の主役は府民であることを再確認し、行政は府民の自律と創意が最大限に発揮され、自主的な活動が活発になるようサポート

理 念

めざす将来像～自律と創意が拓く～「文化自由都市、大阪」

□社会を支える文化
　芸術・文化の保護から、文化が都市活性化や教育、福祉など新たな価値を創造し、社会を支える文化行政
□都市全体に開かれた文化
　劇場や美術館だけでなく、大阪の都市全体で活動・発表できる場の提供
□攻める文化
　今あるものや伝統を守るだけでなく、都市格を向上させる資源として、攻めの姿勢で新たな文化を育てる
□アーティストがめざす都市
　アジアや全国からクリエイティブな人々が目指してやってくる大阪

戦 略

□文化創造の基盤づくり
□都市魅力の向上
□人と地域のエンパワーメント

推進・評価

□PDCAサイクルの構築
「文化自由都市、大阪」実現の数値目標の設定
（文振委員視察による評価も実施）

継承・発展

府市統合・都市魅力創造戦略

H24.9.10中間まとめを踏まえた第３次大阪府文化振興計画（案）（H25年度～ H27年度）

文化の主役は府民であることを再確認し、行政は府民の自律と創意が最大限に発揮され、自主的な活動が活発になるようサポート

理 念

○基本的には、第2次文化振興計画の理念を継承・発展させる。

＜主な意見＞
- 文化振興は都市や経済の活力につなげることが重要。
- 文化施策による医療、福祉などへの効果にも目を向ける。
- アーティストが住みたくなる街、人材が育つ街を目指すべき。

戦 略

＜主な意見＞
- 大都市制度における文化施策の広域行政の役割の整理が必要
- 府民が文化に親しみ、理解を深める府民意識の醸成が必要
- アートと府民をつなぐコーディネートの育成が必要
- 挑戦したいアーティストの支援が必要
- 府民に様々な文化情報を提供するツールが必要

推進・評価

○アーツカウンシルの仕組みの構築

＜主な意見＞
- 評価指標は、実態や経験等に関する具体的なものも検討すべき。